

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972400279		
法人名	有限会社かたくり		
事業所名	グループホーム ほっとステイ万葉の里		
所在地	栃木県佐野市栃本町 3128-5 電話:0283-62-8900		
自己評価作成日	令和 2年10月13日	評価結果市町村受理日	令和 2年12月 7日

### ※事業所の基本情報は

基本情報	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル		
訪問調査日	令和 2年11月 4日	評価確定(合意)日	令和 2年11月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年に開所 認知症対応型通所介護との併設です。自宅からデイへ通い認知症の進行から入所になるケースもあります。馴染みの職員がいる事でデイの方へ顔を出す入居者さんもいます。入浴は個別でゆっくりと時間をかけておもしろいペースで入られています。コロナの影響で外出や面会の制限がある中、テイクアウトやデリバリーを利用する日もあり、パンフレットをみて、ウナギ丼や海鮮丼など一人ひとり選んでもらっています。衛生面に気を付けながら流しラーメン、長い巻きずしをみんなで作った日もあります。敬老の日には職員が練習したためだかの兄弟を披露し、喜んでいました。また、入居者さんの中には、その衣装を着て写真撮ってと言う方もいました。最近では、コロナの感染拡大で外出がさらに制限され、施設内で花火を行い、家族へも報告したら、そういう行事をやってくれるので喜んでる様子が想像つくよと話されていました。花に水をくれたり、日向ぼっこ、体操をして日々を過ごしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に設立した、認知症対応型通所介護と併設の事業所です。やさしく、ゆっくり、寄り添って普通の生活がおくれるような支援を理念としており、個別性を尊重し、利用者の立場に立った支援を通して、家庭の延長のようなアットホームな支援を実践している。地域から野菜の差し入れがあるなどの日常の付き合いに加え、町会長や民生委員が緊急連絡網に入ると共に、事業所が地域住民の避難場所として指定を受けているなど地域との連携が図られている。運営推進会議は利用者、家族、町会長などの参加で定期開催しており、災害時の避難などで意見を交換するなどサービス向上に寄与している。医療面では重度化した場合は協力医院の訪問診療も可能であり、状況によっては併設事業所看護士の相談が可能となっている。終末期も本人家族の意向に沿って対応しており、協力医などとの連携で看取りの対応も可能となっている。地域で家族と共に家庭的な雰囲気です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある普通の暮らしが出来るように利用者本位の介護ケアを考えている。	「普通の生活」とは、個性性を尊重した支援、「寄り添う」とは利用者のこれまでの生活を受容することなど、理念の意義を会議で確認し合っている。家族の情報などを基に、家庭の延長のようなアットホームな生活の実現を目指し、利用者毎の個性性を尊重し、利用者の立場に立った支援を目標に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設を通りかかった人達には積極的に話しかけをしている。	日常的には回覧板のやりとりや近所の人が通りがかった際の挨拶、野菜の差し入れがあるなどの付き合いがある。今年度はコロナ禍で実施出来ていないが、ボランティアの受け入れや中学生との交流会、地域のコミュニティセンターでの催しに参加するなどの交流機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や施設を通りかかった人達には積極的に話しかけをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、市職員、家族、利用者など参加の会議で出された意見や要望を、職員間で話し合い検討している。	利用者、家族(輪番)、町内会長、民生委員などの参加で定期開催しており、年2回は併設の通所介護との合同で実施している。利用者状況や行事、事故などの報告の後、意見が得られる会議となっている。地域情報入手の場ともなっており、昨年の台風で近くの川が氾濫寸前になったこともあり、水害時の避難に関する情報収集の取り組みに繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設空き情報や運営推進会議そして外部情報の報告を行っている。	市役所訪問時や電話などで制度上や人員配置の疑問点などを確認し、アドバイスを得るなどしている。事業所が地域住民の災害避難場所の指定を受けており、災害時の情報入手手段などについても相談するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護実践の具体的な例を挙げて身体拘束になるか否かを話し合っている。施設では拘束をしない事を職員に伝えている。	歩行介助や車椅子の利用者が半数以上になり、転倒事故も時折発生している。居室のセンサーを使ったり、職員間で連携した見守りで再発防止に努めている。帰宅願望の利用者がおり、併設デイサービスに遊びに行ったり、時には送迎の車に乗るなどしている。マニュアルなどから拘束事例をテーマに勉強会をするなど理解の深耕にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で3か月に一回、虐待の研修を行っている。また入浴時などに皮膚観察をして虐待のアザかどうかの確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には回覧で研修の案内などを表示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は利用者家族に施設内を直接見学していただき、施設の方針などを説明し納得して締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話にて現状報告を行い、家族に要望や意見を聞いて、職員に伝え情報を共有し話し合い対応している。	電話での連絡時やコロナ禍で途切れているが、来訪時、運営推進会議の機会に暮らしぶりなどを伝え意見を聴くように努めている。利用者の健康面や食欲の状態などを気遣う意見が良く聞かれ、訪問マッサージの利用や食事の好き嫌いへの工夫など都度対応している。更に季刊で写真満載の事業所便りも発行し暮らしぶりを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃現場にて職員から出た意見要望を聞いて、まとめて会議で決めている。	スタッフ会議で意見、要望を求めている。管理者、ケアマネージャーも現場に出ており、日常的に意見などがあれば都度聴くよう努めている。利用者のケアに関する提言が多く、車椅子生活が固定しないよう、時々の歩行器での歩行の提案やコロナ禍が長引き外出機会が減ったこともあり、家事手伝いの機会を増やしたり、レクリエーションを工夫するなど支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に環境についてなど話を聞き、働きやすい明るい施設になるよう努めている。一人ひとりの職員の持ち味をより良い方向へ繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の長い職員や初めての介護経験者へのケアの統一を図るよう施設内研修を実施するよう管理者と企画し実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回、コロナの影響で交流会はないが、他のグループホームの管理者と意見交換をしている。行事のやり方など参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と一緒に事前に施設に来所していただき、グループホームでの生活を体験しながら、不安に感じる事などをお伺いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設に来所するとき、現在困った事や不安などを伺い施設職員で共有し努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の思いをくみ取り、ケアマネジャーなどの意見を踏まえて、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人無理のない範囲で家事のお手伝いをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内で起きた出来事や訴えをご家族に連絡し相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	はがきや贈り物などが届いた時には家族や贈り相手にこちらから電話連絡を取っている。	知人などが時折訪ねてくることがあり、歓談の場所設定や、時には話の仲介などの支援をしている。家族の協力で馴染みの美容院へ行く利用者もいる。友人からお菓子などが送られてきた時はお礼の電話の支援をしたり、孫から文通したいと手紙が来た利用者の手紙書きの手伝いなどの事例がある。盆正月には2～3名の利用者が一時帰宅をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを行うとき時などひとつの輪になるよう積極的に声かけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい生活の場所へ近況の連絡をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も本人の意見を聞き行動するようにしている。また意見が合わない時には、何度も説明をして少しずつ解ってもらえるようにしている。	会話の成り立ちにくい利用者が多いが、理念にある「やさしく、ゆっくり、寄り添って」を念頭に丁寧に受け答えすることで、思いや意向の把握に繋げている。今までの生活の延長の様に暮らしてもらうことを大切にしており、新聞を取って読む利用者やヤクルトを取っている利用者、利用者同士で漢字ドリルに取り組むなど思い思いの生活を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント情報や昔の生活を直接本人に聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶でいつもと様子が変わらないか、顔色や声などの確認をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきと利用者家族の要望をもとに話し合いをして利用者本位の計画者を作成している。	見直しは6ヶ月毎に実施している。原則月例のケア会議で課題を出し合い、短期目標の3ヶ月毎にモニタリングを実施している。ケアマネージャーは介護も担当しており、利用者個々の状況把握にも繋がっている。家族の意見なども取り入れ現状に即するよう努めており、体操や、歩行練習、更に訪問マッサージの利用なども計画に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録に対応したことなど行動を記録し話し合いをしてあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望の強いとき意思にそった外出や買物など同行している、		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容師によるカットやひよっとこ踊りなどボランティアに協力をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族との連絡を密にして支援をしている。受診時にも報告しあったりしている。	要介護4以上の利用者は協力医の訪問診療が可能であり、現在は1名が受けている。他は家族同伴のかかりつけ医受診となっているが、うち4名は利用開始に伴い近くの病院をかかりつけ医に変更している。更に5名は別途認知症専門医の診察も受けている。何れも受診情報の共有化は受診後口頭で行っている。今年度は人員配置の関係で医療連携体制加算の申請を取りやめたが、状況によっては併設の看護師に相談にのってもらうなどしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師の配置があり利用者の健康管理やなどの相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合にはこまめに病院に行き、医療機関に状態を聞き退院後の準備を早めに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族かかりつけ医や事業所のできる事・出来ない事の話し合いを行い支援している。また変化があった場合などには連絡している。	今年度は医療連携体制加算の取り下げに伴い看取り加算の申請もやめている。利用者、家族の意向確認で方針を共有した支援に努めている。事業所での看取りの意向があった利用者、家族には協力医やかかりつけ医との連携で看取りが可能な事を伝えている。現実的には入院や、系列の地域特養への移動の事例が多く、早めの意向確認で寄り添った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員に周知をはかっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップを基に避難場所、ルートを下見して職員間で話し合いをして周知徹底している。	今年度は8月に防災設備会社の立ち合いで夜間想定訓練を実施している。次の訓練予定は検討中になっている。8月の訓練では避難誘導の優先順位、誘導済の部屋は扉を閉め、名札を裏返すなどの確認を行っている。緊急連絡網には町会長、民生委員も加わっている。ハザードマップ上は浸水地区にあり、今年の台風では秋山川の橋が流され氾濫寸前になったこともあり、水害時の避難場所や避難情報入手について勉強会を行い周知徹底を図っている。	訓練の計画的な実施に期待します。併せて訓練後に反省会を実施し、反省点を記録に残す事、更に消防や防災設備会社の立ち合いがある時は終了後のコメントも必ず記録に残し共有することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴排泄は扉を閉めたりバスタオルで見えないようにしている。また居室に出入りする時にも本人に確認を取っておこなっている。	人生の先輩として敬い、優しく寄り添って丁寧に話を聞くことで人格の尊重に努めている。同じことを何度も繰り返す利用者や話の辻褃の合わない利用者などにも笑顔での対応に努めている。入浴やトイレでの支援には羞恥心に配慮したり、利用者間の相性で嫌な思いをすることをが無いよう、座る位置にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも本人が答えられるように声掛けをして意見を聞きながら支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴など本人家族から得た情報を参考にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際などには身だしなみを整えるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな食べものや食べれないものは代替えで好きなものに対応している。会話しながらいただき、後片づけも声かけをすると快く受けていただき、食器など洗いから拭きまでお手伝いをしていただいています。	昨年メニュー付食材を購入して、職員が調理して提供するように変更している。半数程度は刻みやミキサー食などの対応となっており、一人は介助が必要な状態となっている。職員は同じ席で見守りながら持参の弁当などを食べている。下膳や食器洗いなどを手伝う利用者もいる。節分や節句などの季節メニューも含め月一回程度は独自メニューにしている。定期的な外食も取り入れているが、コロナ禍の現在は出前を活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調を考えて水分量の記録や声掛けをして摂取できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	総入れ歯の方は外してうがいやスポンジブラシを行い、るはずした歯はブラッシングや歯間ブラシを使っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を見たりトイレ間隔を把握して声掛け誘導をしている。	5人程は自立排泄をしており、見守る程度の支援となっている。3人は声掛けなどでのトイレ誘導、1人はトイレ排泄は不可の状態になっている。夜間も起きて来た利用者の誘導、時間で起こしての誘導を行っており、ポータブル使用者もいる。自立維持に体操を日課にしたり、出来るだけ自分で事が済ませられるようマジックファースナー式のパッドを使うなどして自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはミルミルやヤクルトを取っている。また亜麻仁油も入れて飲ませています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のペースにあわせ昔話をしたり、入浴剤を入れたり、本人持参のシャンプー類を使用している。	週2～3回の入浴支援をしており、特に順番などは決めず、日誌などで確認しながら支援をしている。入浴にあまり関心のない男性利用者があるが、言葉掛けに工夫しながら誘っている。普通浴槽なので、利用者の状況によっては職員2人での支援の場合もある。好みの入浴剤を使ったり、家族に好みのシャンプーを持ってきてもらうなどして、寛いだひと時になるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つけないときは、温かい飲み物を出したり、そばで話を聞いて安心してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で薬分けを行い、処方箋などもその都度確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、花の水あげ、荷物運び、工作など苦にならずに楽しんで手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩などを行っている。	季節の良い時期は周辺の畑浴いの道を散歩しており、冬場などは中庭で日光浴している。紅葉、初詣、桜などのそれぞれの季節は各名所や神社などに出かけている。希望が聞かれたり、時には気分転換に買い物やドライブに行ったり、デイサービスの送迎車に乗せてもらうなどしている。家族の協力で外食などに行く利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理保管している。また入出金の際には声かけをして確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればダイヤルをして家族と話しをさせています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には利用者様と一緒に作成した季節の壁紙を貼っています。	居間は建物の中央部に縦長に配置され、中央部に明り取りの天窗、一角には小上がりが設けられている。テーブルを3カ所に分けて置き、ソファも2個置いてある。利用者の塗り絵や職員が描いた絵を飾り、生活感を演出すると共に、季節の花や観葉植物などで季節感も演出している。清掃は行き届き、温湿度も快適に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分に応じられるように、玄関外中庭には椅子、施設内にはソファ、テレビ、観葉植物を置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて過ごせるように、家族と本人と確認を取りながら、ソファやテーブルに掛け時計、カレンダー、洋服掛けなどを決めている。	居間の両側に配置され、和室2室と洋室7室となっている。何れもクローゼット、洗面台が作り付けで、ベッドが備付になっている。家族の写真を飾ったり、自分の塗り絵作品などを飾り、自分なりの空間を演出している。テレビを持ち込んでいる利用者も多い。乱雑にならないよう職員が整理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	転倒リスクがある利用者様には出入り口付近にベットの置いたり、センサーマットを設置している		